

土・まち・みどり

通信第3号

2000. 12. 1

発行 土とみどりを守る会

連絡先 3718-8558(柳島)

CONTENTS ◆秋のつどいイベントレポート◆おくさわ今と昔◆生活情報 びわの煎汁◆グリーンサムのお庭拝見◆庭木と草花季節のケア◆まちなみウォッチングで発見したもの◆会からのお知らせ◆土地の動き

海軍村、ドイツ村、多摩川の玉石、まちを見守る古い木々…
おくさわの古い顔、新しい顔、あなたはいくつ見つけられたでしょうか？

おくさわ まちなみウォッチング

秋のつどい イベントレポート

去る10月28日(土)、土とみどりを守る会が主催する「まちなみウォッチング」が奥沢2丁目で行われました。スタート地点は奥沢神社。午後1時30分に30名が集合し、郷土史家の松田さんのご案内でさっそく街中にくりだしました。

最初に訪れたのは13番地にある田原邸で昭和8年に建てられた門構えがとても立派な住宅です。次に34番地佐藤邸にある今では珍しい終(ひいらぎ)の生け垣を見た後、33番地の黒井さんの大正14年に建てられた南欧風の建物を家の中まで見せていただき、だれもが感嘆の声をあげました。(こちらは現在素敵なお店になっています、必見!)32番地にある「海軍村」の石碑の側では、西野海軍中將のご子息の西野定正さんから海軍村の由来をくわしくお聞きしました。同じく32番地三浦邸と41番地持田邸にある多摩川の玉石を前に、松田さんから多摩川の玉石が江戸時代から建造物の基礎石としてたくさん使用さ

れたとのお話をうかがい、建築史の片隅を覗き込んだような気分になりました。

さらに一同は、大きなヒマラヤ杉のある17番地の石黒邸、30番地にある昭和初期に建てられた大きな近代住宅の平井邸を経て、かつて「ドイツ村」と呼ばれていたエリアへと歩を進めました。岡さんから昭和初期に建てられた赤煉瓦のドイツ風洋館のお話をお聞きしましたが、今ではその名残もみられないことに、一同ちょっぴりがっかりした様子でした。ここをあとに、2丁目のシンボルツリーともいえる23番地近藤邸の大きなケヤキの下にたどり着き、すぐ近くにある石田邸の大きなシラカシの生け垣を最後にウォッチングを終わりました。

めまぐるしく迎った2時間でしたが、日頃何気なく歩いていたこのまちに、時代の歴史を刻んで静かなたたずまいを見せているとても大切な財産がたくさんあることに気付いた貴重なひとときとなりました。

奥沢神社を出発!



西野さんから海軍村の話がうかがう



案内していただいた、郷土史家の松田さんとドイツ村の岡さん



おくさわ今と昔

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。



櫟の大樹に寄せて

奥沢2丁目 関 誠三郎

緑が丘のプラットホームから西の方向を見ると大空に手を掲げている櫟があります。建築家近藤泰夫氏宅のおなじみの世田谷区保存樹木です。250年の年輪を重ねて今も尚四季折々の風情で私達に心のゆとりと安心を感じさせてくれます。立派な人格すら感じます。この辺はそうした雰囲気のある恵まれた住宅地だと思います。

私は明治生まれで大正、昭和、平成と20世紀を体験したわけですが、今のように心の荒んだ事件が続出した時期はありませんでした。これで日本は将来大丈夫かと心配です。多くの人達も同感だと思います。

これは道德の問題ですから個人、家庭、グループ、社会とあらゆる場で根気よく道德水準の改善が必要です。

その意味でも地区の自然を守り居住環境を美しく整備する協力運動はお互いの親睦にもなりますし、私も何かこの「土とみどりを守る会」で出来る事がございましたら参加させていただきます。

人生は心なり、生活は習慣なり、継続は力なり……これは50年以上心がけて実践している私の標語です。私には大変に役にたっております。「土とみどりを守る会」を皆さんと一緒に根気よく続ければ、有形無形の両面でこのまちの環境は守られていくと思います。

私は40数年このまちに住んでいますが、長い間に奥沢2丁目の家並みも随分変化しました。しかし大櫟は揚げた手の中にすべてを包み込んでそびえ立っています。その櫟のある限り、私はこの土地に愛着を持ち続けていきます。

金木犀の香る町

奥沢2丁目 廣田 美嘉

私達家族がこの奥沢に越して参りましたのは、七年前の初夏でした。

この地に住まいを構えたいと願った理由は「自由が丘」「奥沢」「緑が丘」と三つの駅に囲まれた便利な地でありながら、一本路地に踏み入れると突然目に飛び込んで来る草木達の表情でした。それは決して単調なものではなく、手入れの行き届いた丹精な垣根もあれば、道路を覆い尽くさんばかりの大木ありと、様々な表情で私達を迎え入れてくれました。そして初めての秋、どこからともなく漂う金木犀の甘い香りにも安らぎを感じて居りました。

この町に移り住んで六年目の夏と今年の春と一匹ずつ、かねてからの夢でもありました犬を飼いました。それ以来、主人と又ある時は子ども達と一緒に、二頭の犬を連れての朝夕の散歩が日課となって居ります。「今日はこの角」「明日はあの路地」と散策を続けて居ますが、未だに新しい「奥沢の顔」との出会いのある日々を楽しませて頂いて居ります。

間もなく本格的な冬が訪れ、春が来て夏が過ぎ、そして五年後更に十年後と、金木犀の香りが似合うこの町を、愛犬を連れて主人や子ども達と歩き続けて居たいと思っ

生活情報

枇杷の葉の煎汁

1号で梅の実の効能を紹介して下さった黒井眞器さんに今回は枇杷の葉の驚異的な効力について発表していただきました。お役に立てて下さい。

古いお庭にはよく植えられていた枇杷の樹、緑の葉が繁りすぎるため、家の建て替えのときには伐られてしまい、この頃は残されている大樹を見ることも都会では稀になっています。

一年中緑を絶やさぬ枇杷の葉に素晴らしい薬効のあることをもっと知っていただきたいと思っています。昨年夏に飼犬の眼の上に来た悪性腫瘍。手術をくり返してもすぐ再発していたものに、もしかしたらと使ってみて1ヶ月程でみるみる治癒しました。皮膚の炎症には特に効くようです。新聞の投稿欄にアトピーの痒みには枇杷の葉が一番とありましたし、私も現実にもその効果に感謝しています。煎じ方は次の通りです。

枇杷の葉は一年中緑とはいっても新芽は余り効果がなく太陽を一杯吸った固い大きな葉がよいです。大きいものなら一枚、中位の大きさなら二枚を水で洗い（洗剤は用いない）鉄でチョンチョンと2cm巾に切ります。瀬戸引かステンレスの鍋又はやかんに水1リットルを入れて水から煮出します。煮立ったら弱火にして10分~15分、そのまま火を止めて2時間ぐらい置くと冷めた頃には紅色のきれいな煎汁となります。皮膚炎にはその濃さのまま、飲むには少し薄めた方が飲みやすいです。夏は冷蔵庫に冷ましておいて麦茶代わりに飲んでます。ワインなど一寸たらずととてもステキなお味です。

枇杷の葉は癌に効くと言われていて、以前高齢の叔父の前立腺癌に従姉が煎汁を根気よく運んで飲ませ、脳梗塞で亡くなったときには癌が消えていたと言っていました。口内に癌の出来ている犬に食事に入れて与えていて効いている様子、二頭を対象に調査中です。

枇杷は育ちが速いですから植木鉢にでも種子を蒔いてごらんになっては如何でしょう。但し実がなるには18年かかります。わが家の枇杷もこの経過で大きく育った一樹です。枇杷の樹に毛虫がつかぬことも不思議の一つです。

グリーンサムのお庭拝見 Vol.2

苦米地こうさんのお野菜ワンダーランドへGO

2丁目32番地の東南の角で、イネが実っている様子に目をとめられた方は多かったことと思います。今も里芋・大根・ネギ・三つ葉・セリ・くわい・クレソンなどが塀の内外で元気よく育っています。この農園の主は苦米地こうさん。弘前で生まれ、東京で学んだこうさんは、5人のお子様を社会に送り出して、今はご子息夫妻にやさしく見守られながら暮らしていらっしゃいます。90才を過ぎてお元気のもとには野菜を育てる楽しみにあるようです。

イネは、荒木田土と畑土を混ぜて作った土に苗をさします。肥料はすべて牛糞・鶏糞・魚粉を塩抜きしたものを使い、化学肥料は使いません。収穫後は稲こきをして、頼んで精米してもらおうそうです。一握りのお米でしたがとても輝いていました。

野菜の種は横浜の種屋で買います。次に何を植えるかは、不思議なことに土が教えてくれます。以前のように自分で採った種を蒔いて苗を作ろうとしても、全く発芽しなかったり、全然別種の芽が出たりすることがありますが、食べた後のメロンの種を蒔いておいし

いメロンが採れたこともありました。

とれたての野菜の味は格別で、ご近所に差し上げると「本当の味」のおいしさに驚かれるとのことでした。

イモ類やナスなど連作が駄目なもの・南京豆は砂地の荒地地になど、一つひとつ異なった条件なので床（とこ）作りまでが大変です。新しい農法を追求しながら農場を営んでおられたお父様のやり方を見て、覚えたことをやっているだけとのことですが、すべて自然のままに、手をかけてはいけないとの信念をお持ちです。

一面に日の光を浴びるよりも隙間から射す細い光線の恩恵を良しと思うなど、人生の先輩として示唆に富んだお話もうかがうことができました。

無理を云って見せていただいたお2階のベランダは、若いご夫妻のお花畑。かわいい鉢が所狭しと並んで、花好きの方ならではの心配りが溢れていました。2階の花と1階の野菜。この絶妙なハーモニーは2世代のすばらしい関係を紡いでいるように見えました。



庭木と草花 季節のケア

草花のケア

これから気温もグングン下がり、休眠期に入る植物たちもたくさんあります。といっても全く眠ってしまうのではなく、地中の根はしっかりと息をし、春の芽吹きに備えています。したがって、茎も水分も必要ですし肥料も全く不必要というわけにもいきません。春まで咲き続けるパンジーやノースポールなどは、花がらを摘み定期的に液肥を与えすと長い間美しい花を咲かせ楽しませてくれます。

寒さに弱いものはすでに家の中に取り入れていることと思いますが、窓際から少し離すとか、直接暖房の風の当たらないところに置くなど、また路地植えのものは地際5~10センチのところで切り戻し上を腐葉土や落ち葉などで覆い、寒さと冬の乾燥から株を守る心配りが必要となります。

鉢物の場合、鉢の種類や用土の違いによっても水やりの頻度は変わってきますが、いづれにしても表土が乾いて2、3日してから鉢底から流れ出るまでたっぷりと灌水するのが基本です。その理由は、植物の根は常に水分の多い状態の中では伸びにくかったり根腐れをおこしたりします。団粒化した土の間に、水分ではなく酸素が多くなると伸び始めるので、乾湿の差をつける必要があるわけです。また、水やりの目的は水分の補給だけではなく、鉢中で根が排泄した二酸化炭素や有機酸などを外に流し出したり、肥料を溶かしてその吸収をしやすくするなどの効果もあります。「水やり3年」といわれるほど難しい作業です。緑多いまちづくりのため、大変な作業でも続けていただきたいものです。(杉村)

庭木のケア

12月は、朝夕の冷え込みも厳しくなり、葉をすっかり落とした落葉樹の姿も何となく寂しく見える冬枯れの季節ですが、新年を迎えるための庭仕事はたくさんあります。

落葉広葉樹は葉がなくなっているので、枝の育ち具合がはっきりわかります。からみ枝・さかさ枝・ふところ枝などの取り残しがあれば、これを取り除いて姿を整えてやります。常緑広葉樹も徒長枝やからみ枝、込みすぎた枝などを抜き、葉の多すぎる小枝は3~5葉を残します。アジサイ、クチナシ、ユキヤナギなどのように今年の枝に花が咲く花木類の枝は切らないようにします。黒松や赤松を食い荒らしたマツケムシが越冬のため下の方に降りてくるので、幹の目の高さくらいにコモを腹巻きのように巻き、ケムシを誘導しておきます。

年が明けたら、ツルバラ、ノウゼンカズラ、フジなどの蔓ものを竹垣・ポール・アーチなどに誘引する仕事があります。時期を逸すると花芽を傷めるので寒中に済ませましょう。

害虫や病原菌が潜んでいるこの時期に、春からの害虫や病気の予防の意味で石灰硫黄合剤の20倍液を2~3回散布しておくとかイガラムシなどの害虫をはじめ、スズ病・斑点病・サビ病などの病気の予防に効き目があるのでお忘れなく。

寒肥もこの時期の大切な仕事です。堆肥・油粕・鶏糞・草木灰・骨粉・魚粉など遅効性の肥料を庭木に与えます。(MNJ)

まちなみウォッチングで 再発見したもの

“奥沢2丁目はこんなにすばらしいまちだった”と再認識した目からウロコの日でした。買い物や散歩の度に目になっていた建物や生垣や門柱が、松田さんの御説明をうかがってからはとても大切なものに見えてきました。

時代を映すたくさんの宝物は個人の資産として守られています。このまちに住む人々にとっての大きな財産でもあります。この静かで緑の多い、やすらぎのまちをみんなで守り次の世代へ繋いで行くために、私たちは何をしたいのでしょうか。先ず手近な所から始めていきましょう。

四季の催しを重ねる度に、地域で会話を交わす方々も増えました。地域の人々の生き生きとした交流の中から生まれてくるものを大切にしたいと思っています。



会からのお知らせ

●新春のつどいの催しは1月20日(土)に開きます。秋のまちなみウォッチングのビデオを上映して、当日参加された方には更に詳細にご理解いただき、参加できなかった方には奥沢のまちをもっとわかって頂けるようにしたいと考えています。このまちの良いところ、悪いところ、将来について話し合ひましょう。1月はじめにこの紙と同色のチラシでくわしくお知らせ致します。

●月に1回、定例会を開いています。どなたでもお気軽にご参加ください。

●会では、活動をとりに運営していくメンバーを常時募集しています。得意分野を役立てたい、というのも大歓迎。どんなささやかなことでも、まずはご一報を!

●各欄への投稿記事を募っています。ご面倒な方には、こちらからインタビューに伺います。

カット・イラストも大歓迎。

また、記事に関するご感想・ご意見をお聞かせください。

●土とみどりを守る会では、ガーデンシュレッダー(せんてい枝粉碎機)を無料で貸し出しています。落とした枝をチップにしてお庭の土にまいたり、肥料にできます。

土地の動き情報

○奥沢2-42の大坂邸跡地は、3分割され、現在2棟が完成して売り出し中です。1区画30坪は土地として売り出し中です。

○奥沢2-26の林皮膚科跡地(約60坪)は、3分割され、現在3棟が建築中です。

まちなみウォッチングの際のアンケートから

歩きながら記入して頂いたメモの中の一部です。お書き下さった方々ありがとうございました。

- 田原邸 木と美しい瓦であたたかい印象。二重の門扉が貴重。松と家のバランスが良い。
- 黒井邸 持主が住居を大切にしている気持ちが伝わってくる。住宅内部の重厚な趣に魅せられた。玄関ドアの海軍のシンボルマークが印象的でとてもモダン。大正から昭和初期にかけての典型的住宅。保存がすばらしく大事に残したい価値あるもの。
- 海軍村 お話を聞いて村全体のイメージが見えてくるよう。海軍に勤務する方が35軒も集まっていたということや当時の西野邸の建築費が7600円とはおどろき。
- 枘田邸 ドアの形がいい。オープンな雰囲気がいい。建主と相談して是非区に保存をしてもらうように。
- 玉石 多摩川の採石が今も立派に生きている。今では珍しいもので残していきたい。
- 三浦邸 当時の建築様式がうかがえる。応接間の位置についても再認識。当時洋間だけのつくりは珍しい。木がよく手入れされているし木が多くて良い。シュロの持つ時代的意味を知る。
- 石黒邸 大きいヒマラヤ杉にびっくり。
- 平井邸 生垣の緑が美しい。家も木も良く、玄関のあかりがいい。
- 保存樹木 大樫は2丁目のシンボル。一番興味がわいた。大きな幹に手を触れてエネルギーを得られた住宅地の自然(樹木)の存在価値を問う意味がある。木の偉大さと温もりが伝わってくる。家との関連がよくマッチしている。
- 石川邸 木が多く繁って手入れは大変そうだがもみじが美しい。木造の家はなつかしい印象。
- ドイツ村 建物が残っていないのが残念だが、細い坂道の雰囲気は他では見られない。昔の面影が無さすぎてわからない。

2丁目の住み心地

住人の心掛けや隣人との協調で住環境は向上する→住み心地と連動する。この理解が広まることを期待する。全体的に緑多く静かなまち。これからはもっと門戸を開いてコミュニケーションを図りたい。自由が丘のように開けすぎず、田園調布のように高級ではなく、それなりに緑もあるよい町。皆で守りたい。

編集後記

あの酷暑のあと、あまり秋晴れに恵まれないうちに冬が急ぎ足でやってきました。落ち葉を掃き集めながら、気軽に焚き火ができた頃をなつかしく思っています。新世紀まであと僅か—どうぞよいお年を。

土とみどりを守る会 連絡先

奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
奥沢2-41-2 柳島尚子 3718-8558